

6月上旬、高尾では、湯殿川の上流（拓殖大学）から境橋にかけて毎年ゲンジボタルが自然に発生します。初めて見たときはホタルが飛び交う緑色のはかなげな光に感動しました。また、高尾北口の元八王子・城山川沿いにも1000匹ほどホタルが出ます。ここは、地元の人たちが保護活動をしています。6月9・10日「八王子ほたる祭り」がありました。

# 紅葉台



# 新聞

第136号

2024年  
6月29日

発行人：関谷 孝

## ねこのちの心 時々ことば

野澤 文さん

### 4 「かぎしっぽ」



「まじ(本名『くろ「ま」め・「じ」じ』)」は黒猫です。地域猫の子として生まれ、多分母猫や兄弟猫とはぐれて、夕暮れの道を夫の元へ、夫曰く、ブレーメンの音楽隊みたいに(?)歩いてきた彼は、

700gの痩せっぽちでした。真っ青のすてきな目でしたが、1歳になった頃、ほとんど見えていないということがわかりました。それでも何にも不自由なさそうに、可愛がらせてくれました。700gだったのにいつしか7kgに近くなったこともあるほど食いしん坊で、実はやんちゃで、ステキな猫っ毛で、あったかくって、世界で一番可愛い猫です。まじとの暮らしは、まじで幸せでした。お世話になった動物病院に初めて連れて行った時、しっぽが「くの字」に曲がっているのを心配する私に「かぎしっぽの猫ちゃん、かぎしっぽに幸せをぶら下げてくるって言ったりするんですよ。」って話してもらったこと忘れられません。本当に本当に、しあわせな時間をいっぱい連れてきてくれたまじ。

まじが、我が家に来てくれてからやがて7年、そしてそのまじが「虹の橋」に逝ってしまって1年。

楽しいこと、あったかいこと、しあわせなことが、山盛りあったのに、具合が悪く病院に毎日お世話になっていた最後の数ヶ月ばかりが、思い出されてしまって。実は寂しがり屋なのは自分なのに、「家につく」と言われる猫を淋しいだろうと1人にできず、連れて動いたこと、時々何かちょっと具合に変調があるときだけ、ネットで調べ心配の渦の中で溺れそうになるのが辛く中途半端にして、病院に行った時の先生の一言だけに自分勝手な解釈ですが引き続きたり、、、そういうことがお別れにつながってしまったと、勝手にうちの子にしたくせに、しっかり面倒見られなかったと、思われ、申し訳なく悲しくごめんねばかりが込み上げてきます。



「ごめんよりありがとうございますよ。」何度も娘に言われました。「虹の橋」や「たいくつをあげる」などすてきな本や温かい言葉でなくさめてくれる人たちの優しさが、身に染みました。それでもよく、すわっていたところに荷物を置けない、寝たところに毛布を敷きたくなる。同じ頃愛犬を亡くした友達が言った「手が淋しい」。。。そういう気持ちと暮らしています。

そんなある日、娘婿が「お父さん寂しいだろうな、ずっと一緒にいたから」と言ってたよと娘が教えてくれた。そうだった。日中、自由のきく夫はいつもまじと一緒に、手仕事に夢中になってもつとつと覗き、立ち話する声を聞いてはにやあにやあと後を追われた。勤め帰りの私を二人で迎えに来てくれた。温まった助手席に、まじを抱いて座ると、本当にうっとりとした。自分だけが淋しんじゃない。なのにわがままに一人淋しさを

反芻してしまうのです。

まじが逝った春に、まじを大好きだった(きっとまじも好きだった)孫が保育園に入園しました。病院通いを気にせず、孫の慣らし保育に手を貸せました。夏には、まじと一緒にに行けるかなと何度もシミュレーションしていた九州の両親の先祖の墓参りや親類への挨拶にフェリーと車を使って行ってきました。胸の浅いところに淋しい気持ちはあるけれど、仕事もできて、毎日を元気に暮らしています。

木や草がちゃんと都合よく生きて枯れていくことをアメリカ人の友人が「ナチュラルオーダー」という言葉で教えてくれたことを思い出します。「おかあ、チビの面倒ちゃんとみて。」「おじい、おばあとゆっくり話するんだよ。」「ぼくはゆっくり見ているから、行っといで」「今度はそれが順番」って言うてるのかしら。そんな私にだけ都合のいいナチュラルオーダーで。。。まじごめん まじ ありがとうってまた泣けてきます。

カギ尻尾の先に本当にたくさんの幸せをもってきてくれたまじとの暮らし、

逢ひ見ての のちの心に くらぶれば 昔はものを 思はざりけり



毎朝起きてきたまじを抱き上げて、見えない分、声で届けたくて、「大好きだよ、ありがとう」って耳元でいうと喉の奥でぐうぐうって応えてくれたあの声 思い出せる幸せに感謝しながら、暮らしていこうと思います。

## 粕谷和夫の観察日記



5月1日に八王子市川町谷戸で撮ったキジョランの葉裏のアサギマダラの幼虫の写真を配信しました。5月22日、同じ場所の同じキジョランの葉をひっくり返してみるとあの時の幼虫が蛹になっていました。この写真の下は5月1日のものと同じで、上が蛹です。成虫(チョウ)のアサギマダラがいつ羽化するか楽しみです。

4月24日に小山市の渡良瀬遊水地の人工島塔巣で営巣中のコウノトリの写真を配信しました。その後の巣の中の雛がどのくらい大きくなったかの観察に5月22日に再び訪れてみました。雛は3羽いて親鳥の半分以上の大きさに育っていました。(写真上)。しばらくすると巣にオス親が餌を運んできて、その後でそろって顔を上に向けての儀式のようなポーズをとってくれました。(写真下)



紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。